

浦賀小学校6年生の皆さん

はじめまして。地域映画監督の三好大輔と申します。本来であれば教室で映画作りの話をしたいと思っていましたが、昨今の状況からまずはお便りでご挨拶させていただきます。今回、浦賀小学校6年生の皆さんと地域映画をつくることになりました。地域映画？と聞いてもなんのことかわからないと思いますが、これから少しずつお伝えしていきたいと思います。

「映画」と一言と言っても色々なジャンルがありますね。ハリウッドの大作、ディズニーやジブリのアニメーション、壮大な時代劇から人物に焦点を当てたドキュメンタリー映画まで様々です。浦賀で「映画をつくる」と話を聞いて、皆さんはどんな「映画」を思い描きましたか？今回つくるのは「地域映画」というものです。記録映画やドキュメンタリーというジャンルの中のひとつと考えていいと思います。実はこの「地域映画」はまだどこにも無いジャンルで、10年前から三好監督がつくり続けてきた映画を総称して「地域映画」と呼ぶことにしたのです。

映画は総合芸術と言われるように、様々な専門的な知識や技術が必要になります。この地域映画では「その土地あるものを生かす」というコンセプトのもと、様々な専門家の方を招いて映画づくりを行います。映画づくりに必要なものを浦賀の町から探し集め1本の映画に仕立てあげます。「映像」はもちろん、「音楽」や「言葉」「効果音」「題字」など、映画に必要なものは全て浦賀でまかなうのです。「地産地消」とも言えますね。そしてこの映画づくりの中心になるのが6年生の皆さんです。映画なんて作ったことない、どうやったら映画ができるのかわからない、という声が聞こえてきそうですが、専門的な知識や経験は必要ありません。必要なのは「浦賀を元気にしたい」という気持ちだけです。その裏側には「自分が暮らしている町に誇りを持ちたい」とか「もっと浦賀のことを知りたい」という郷土愛に根ざした考え方がある一方で「最近の浦賀はちょっと元気がないな」「人がだんだん少なくなっているな」という現実を見たときに生まれる考え方もあると思います。先日、校長先生と担任の先生と打ち合わせをした時に「今年の6年生は浦賀への郷土愛が強い」というお話を聞きました。是非、その浦賀愛をもってこの地域映画づくりに取り組んでもらいたいと思います。

最後に。どんな映画にも共通するものがひとつだけあります。それは「メッセージがある」ということです。映画の作り手のメッセージが必ず映画で表現されています。言葉になっていなくても表情や物語の中で伝えているものも多くあります。どのように受け手が感じるかは自由ですが、作り手として「メッセージを持つ」ということがとても大切になります。一人ひとりがそこをしっかりと考えながら地域映画をつくりたいと思います。

令和2年4月13日
地域映画監督 三好大輔

宿題 「映画を観る」

映画を1本観てきてください。ジャンルや内容は問いません。

- ・タイトル

- ・製作年

- ・監督

- ・キャスト

- ・ストーリー

- ・この映画のメッセージ

- ・映画を観て感じたこと、考えたこと。自分自身の変化などを記してください。